

自然に近い環境での乳牛の飼育(星野リゾート トمام)

SDGsラジオを読んでみよう！

みなさんは牧場、と聞くと、どんな風景を想像しますか？

広大な草原で牛たちがのんびりと草を食べているイメージでしょうか。これは放牧、という畜産のスタイルです。

昔は多かったこの放牧、いまの日本では少数派になってしまいました。

実際には多くの牛が、一年中、せまい牛舎のなかで過ごしているんです。

そんななか、北海道にあるリゾートホテル「星野リゾート トمام」では、

かつて約700頭の牛が放牧されていた美しい原風景を取り戻すために、ゴルフ場を牧場に変え、新たに放牧を始めました。

この牛たちは春から秋の間、自由に歩き回って草を食べます。自然に近い形でびのび過ごす牛たちは、ストレスを感じません。

そのことは牛たちが出してくれるお乳にもいい影響をもたらしています。

牧場の美しい風景を取り戻すことが、よりおいしい牛乳の生産につながったこのお話。

次に牛乳を飲むとき、ちょっと思い出してみてくださいね。

SDGsラジオの内容を、もっと詳しく知ろう！



画像参照：星野リゾート トمام(星野リゾート公式HPより)

北海道勇払(ゆうふつ)郡占冠(しむかっぷ)村にある、北海道最大級の滞在型リゾートホテル「星野リゾート トمام」は、札幌から東に約150kmの場所にあります。以前この一帯にはゴルフ場がありましたが、台風などによる大雨の被害によりゴルフ場を閉鎖することになり、その約100ヘクタール(東京ドーム約21個分)の広大な土地を何とか有効利用できないかと考え、スタートしたのが農業プロジェクト「ファーム星野」です。



画像参照：「ファームエリア」の巨大牧草ベッド(星野リゾート公式HPより)

「ファームエリア」は、かつて約700頭の牛が飼育され、農業が営まれていた場所でした。ファームエリアでは、当時の美しい風景を取り戻し、かつ旅行者にも楽しんでもらいたいとの考えから、日本では数少ない「放牧酪農」という、牛を牧草地に放し飼いにする飼育方式を取り入れています。牛が自由に歩き回り、牧草を食べ、排泄物が肥料となり、また新たな牧草が育つという、資源循環型農業としての側面もあります。牛舎で飼育する一般的な方式よりも衛生的で、牛に与えるストレスも少なく、運動量が増えて健康な牛が育ちます。現在は、牛だけでなく羊・ヤギなども放牧して北海道らしい牧歌的な風景を織りなしています。その風景を旅行者にも味わってもらおうと、ファームエリア内に「巨大牧草ベッド」を設置。これは牧草を敷き詰めた全長30mにわたるふかふかのベッドで、旅行者が寝ころびながら放牧されている牛などを眺めることができます。このように「ファームエリア」では「酪農」と「観光」をうまく両立させつつ、持続可能な観光の実現に日々取り組んでいます。

キーワード

トمام

アイヌ語で「湿地」を意味し、漢字では「苦鶉」と書きます。北海道には他にも「ニセコ」など、アイヌ語由来の地名が多く残っています。

酪農

牛やヤギなどを飼育し、乳や乳製品などを生産する農業のことです。

牧草

家畜の飼料用に栽培される植物で、イネ科とマメ科のものが中心です。

対象ゴール



みなさんにできること！

農業と観光の両立について、話合いながら、なにができるか考えていきましょう。

おさらい

- 日本では、放牧酪農を取り入れる農家は少ない。
- 放牧酪農は、資源循環型の農業として有益な酪農のひとつ。
- 酪農と観光の両立により、持続可能な観光を実現できる。

メモ



SDGs ラジオ